

## [014] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10256>

---

出版情報：語文研究. 14, 1962-05-31. 九州大学国語国文学会  
バージョン：  
権利関係：

## 編集後記

初夏をむかえて、第十四号をおくる。遅刊に加えて、量の乏しさも気にかかるが、それを補う質のほどを、研究室の若手を中心にした各論考の上で見えていただくことにする。

御承知のとおり、笹淵友一会員が、学士院恩賜賞を受けられ、また本学の福田・中村・春日の三先生、および瀬古確・横山正・目加田さくをの各会員も、この度文学博士の学位をお受けになった。共に本学会最大の慶事として御喜びを申し上げます。

○ 田村克郎会員が昨年九月に逝去された。謹んで哀悼の意を表する

○ 五年間にわたって助手として勤務された森山隆氏が、昨年十月教養部講師として御栄転の後に、石川八朗氏が入り、さらに岡氏の大学院博士課程進学に伴って、四月から白石悌三氏を迎えた。よろしく願います。

○ 正門から法文経ビルまでの庭が舗装され、新緑の植込みにはばらが咲き、夜ともなれば、時計には灯がともるようになった。とたんに、文科系は新館へ行きやれ、とのお達し。そこは、トラックが奔り、電車が通り、土塊と雑草とが道を塞ぐ。その上にお寒い当局の建築計画をめぐって、議論沸騰するこの頃である。

(今井記)